

愛知中小企業家同友会景況調査報告

— 1 9 9 6 年 8 月 —

再び水面下に沈む景況感

～ 回復力の脆弱さ鮮明に ～

【概況】

3四半期連続でマイナス超幅を減少させ、前回調査で初めてマイナスを脱してそのD I値を0とした業況判断D I（全業種）は、今回再び水面下に沈み、前回調査より9ポイント悪化のマイナス9（前年同月比）となった。鈍化傾向を示す回復力に対する警戒感から、前回調査では厳しい次期見通し（3ヶ月先）が示されていたが、今回の結果はその予測よりさらに厳しい結果となった。この結果は、0-157の影響など一時的要因も考えられるが、このような要因が大きく作用したとすれば、それはまた、回復力が非常に脆弱なものであることを実証したとも言うべきであろう。

各調査項目における次期見通しを見ると、業況判断D I、売上高D Iを除く諸項目で改善が見込まれている。悪化の予測D Iがでている業況判断および売上高では、業種間の跛行性が顕著である。公共投資の息切れや住宅建設の不服感、消費税がらみの年末にかけての駆け込み需要など、予測されるプラスあるいはマイナス要因との関わり合いの度合いによるものと思われる。いずれにしろ「民間需要が主導する自立回復」に点火するかどうかが、回復基調を強めるかそれとも腰折れ状態に陥るかの岐路になるわけだが、『経済白書』に言うところの「比較優位産業」以外に属する大部分の中小企業にとって、現在の中小企業を取り巻く企業環境のもとでは「自立回復」の流れへの合流は至難の業であろう。

【調査要項】

- ①調査時 1996年8月29日～9月5日
- ②対象企業 愛知中小企業家同友会、会員企業
- ③調査方法 調査書をFAXで発送、自計記入、FAXで回収
- ④回答企業 625社より、208社の回答をえた（回収率35.1%）
（建設業41社、製造業77社、流通・商業48社、サービス業42社）
- ⑤平均従業員 35.1人

なお、本報告は愛知中小企業家同友会情報センター（委員長、村上瑋樹・村上電気工業株式会社）が実施した調査結果をもとに、景況分析会議（座長、山口義行立教大学助教授）での検討を経てなされたものである。

【雇用】

「適正」が約7割占める

「雇用動向」D Iは、全業種では前回調査の△7から△11へと変化した。しかし、「適正」が約7割を占めており、この点は前回調査と変わらなかった。しかし、その構成部分の業種ごとに見ると、建設業では「不足」と答えた企業の割合を減少させたが、その他の業種では「不足」と答えた企業の割合を増加させている。とくにサービス業ではその割合は前回調査より約12ポイント増加した。この傾向は、次期予測でも同様である。

【経営上の力点など】

全業種で「大企業の進出による競争の激化」割合増加する

前回調査で「経営上の問題点」の第1位に浮上した「販売先からの値下げ要請」は、建設業でその割合を若干減少させたが、流通、サービス業での増加の結果、今回も41%で第1位を占めた。「民間需要の停滞」、「人件費の増加」がそれに続いているが、ついで「大企業の進出による競争の激化」を22%企業が挙げ、第4位に浮上した。この項目が20%を越えたのは一昨年（94年）8月（23%）以来のことである。しかも今回調査では全業種でその割合を高めており、先行きが懸念されるところである。

文書回答では、見通しの立たない年末以降の景気にたいする不安や、大企業との競争、そして早すぎる技術革新への対応など、長引く景気低迷のもとでの厳しい経営環境について、たくさんの見解が述べられている。景況分析会議に参加された会員経営者からは次のような見解が出されている。

< 会員の声 >

【印刷】

外食関連の仕事をしているため、8月は0-157で惨憺たる結果となった。5月以降でいえば、動きはあり、底は脱したという感触はあるのに数字には出てこない。広告自体は好調だが、何が原因でそうなっているのかわからない。

【繊維製品卸】

繊維産業は成熟産業ともいわれ、すでに飽和状態。市場では仕事の取り合いがこの先半永久的に続くだろう。国産品と輸入品があるが、輸入品はここ数年増え続けている。機械を、韓国からタイや中国へ持って行き生産しているため、価格競争に巻き込まれればとてもたちうちはできない。最近、円安の影響で少し価格は上がってきているが……。

愛知中小企業家同友会景況調査報告 No.11

1996年 9月26日発行

編集・発行 愛知中小企業家同友会・情報センター
景況調査研究会

〒460 名古屋市中区錦三丁目5-18京枝屋ビル4階
電話 052(971)2671(代) ファクシミリ 052(971)5406

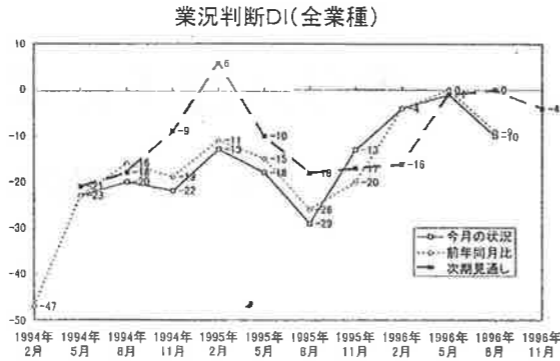
【業況判断】

再びマイナス超幅広がり、業種間の跛行性強まる。

前回調査で調査開始以来初めて前年同月に比して業況が「好転」したと答えた企業と「悪化」したと答えた企業の割合が同数となり、ようやく水面から浮上するかと思えた業況判断DIであるが、全業種ではマイナス9と前回調査より9ポイントマイナス超幅を広げる結果となった。業種別に見ると前年には阪神大震災や社会的事件によって大きく影響を受けたと思われるサービス業において、前年同月比での業況判断DIを若干改善させている以外は、その値を悪化させている。

とくに、流通業では前回調査より29ポイントマイナス超幅を広げて△35となり、調査開始時(1994年2月)の△44に次ぐ業況感の悪化となった。流通業でのこの結果は、0-157による生鮮食料品の荷動きの停滞など、一時的要因が働いているものと思われる。また、建設業でも前回調査より11ポイント悪化させ、△22となった。ただし、製造業では前回調査より5ポイントの悪化にとどまった。

業況の絶対水準を尋ねる今月の状況DIは、建設業を除いて前年同月比とほぼ同じ動きであり、全業種では前回調査より9ポイント悪化し、△10となった。また、次期見通しでは、製造業およびサービス業では若干の改善を予測しているが、建設および流通業では悪化を予測しており、その結果、全業種では前回調査より4ポイント悪化の△4となった。次期の景況感は業種間における跛行性が顕著になるとと思われる。



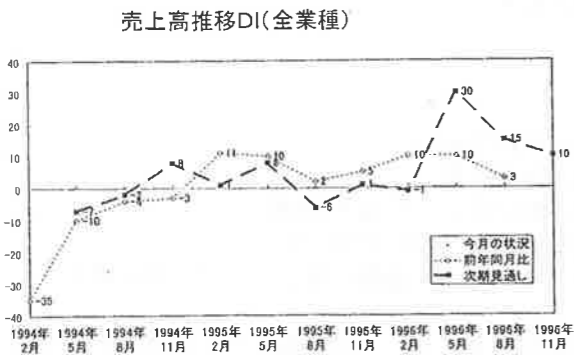
【売上高】 【経常利益】

売上高、経常利益ともに低迷続く

売上高DI(前年の8月と比べて、売上が「増加」したと答えた企業の割合から

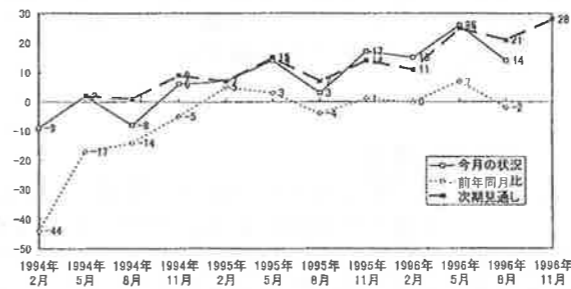
「減少」したと答えた企業の割合を引いたもの)は、前回調査の予測値15を下回り、全業種で3となった。サービス業で前回調査よりわずか2ポイント改善しているが、他の業種では軒並み前回調査より悪化させている。製造業では今年2月をピークとして2四半期連続でそのDI値を悪化させているのが気になるところである。次期見通しでも前回調査より5ポイント悪化し、10となっている。

経常利益DIも同様の動きを示している。前年同月比、今月の状況ともにそのDI値を前回調査よりそれぞれ9ポイント、12ポイント悪化させてい



る。次期予測値は全業種で前回調査より7ポイント改善されているが、現在のところ、改善傾向にあるというよりむしろ低迷したまま推移している状況といえよう。

経常利益推移DI(全業種)



【在庫】

「過剰」感ほぼ変わらず、「不足」が若干増加

前回調査で「過剰」と答えた企業の割合が前々回の13%台から20%台に増加したが、今回調査ではこの割合はほぼ同じであったが、「不足」と答えた企業の割合が若干増加して、全業種では6ポイントの改善となった。製造業で「過剰」と答えた企業が若干増えたが、他方、「不足」と答えた企業の割合も9ポイント増加しているのが目立っている。

【価格変動】 【取引条件】

価格変動は若干改善、取引条件はマイナス超幅広げる

今年に入って、価格変動DI(前年同月と比較して「上昇」したと答えた企業の割合から「低下」したと答えた企業の割合を引いたもの)は、△30台半ばで推移してきているが、今回調査では、マイナス超幅が若干縮小され、△31となった。これは、住宅建設需要の増加などに支えられている建設業で、「上昇」と答えた企業の割合が増加(5.7→11.4)したこと、また、製造業での「低下」したと答えた企業の割合の減少(46.0→35.5)に負うところが大きい。それに対して、取引条件は、全業種で「悪化」と答えた企業の割合が増加し、そのDI(前年同月と比較して「好転」したと答えた企業の割合から「悪化」したと答えた企業の割合を引いたもの)は前回調査より6ポイントマイナス超幅が広がり、△11→△17となった。予測DIは△12となっている。

【資金繰り】

再び「窮屈」が増加する

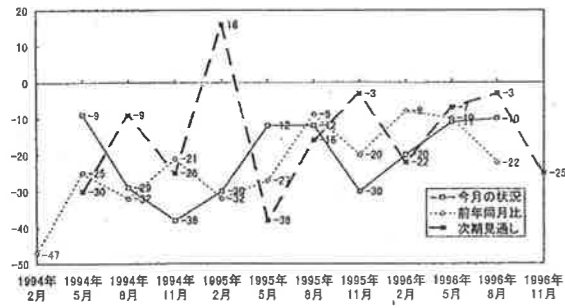
前回調査で「順調」と答えた企業の割合が6割に達し、「余裕」と答えた企業から「窮屈」と答えた企業の割合を引いたそのDIも改善された(△32→△27)資金繰りであるが、今回調査では、全業種で「窮屈」と答えた企業の割合が再び増加して約4割を占め、「順調」と答えた企業の割合が約5割とその比率を減少させた。「余裕」と答えた企業の割合も3ポイントほど増加した結果、資金繰りDIは前回調査より3ポイント悪化の△30となった。次期見通しでも3ポイントの悪化の△33が予測されている。

【施設稼働率】 【設備過不足】

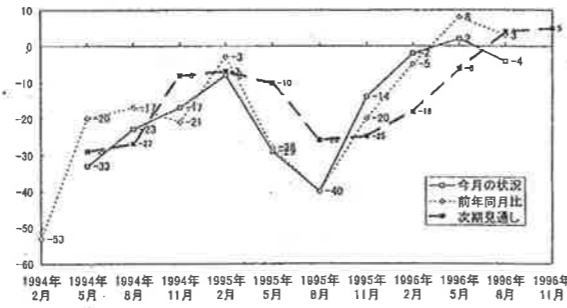
施設稼働率DI再び水面下

施設稼働率DI(前年同月に比して「上昇」したと答えた企業の割合から「低下」したと答えた企業の割合を引いたもの)は、今年に入って順調に改善傾向を示していたが、ここへきて「上昇」したと答えた企業の割合が減少し、他方「低下」したと答えた企業の割合が増加した結果、水面下の△3となった。設備過不足も同様の動きを示しており、「過剰」と答えた企業の割合が上昇、他方「不足」と答えた企業が減少した結果、前回調査より4ポイント悪化し、△11となった。しかし、次期見通しでは施設稼働率、設備過不足ともに、改善が見込まれている。

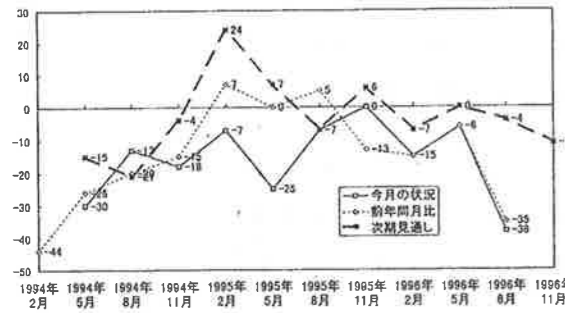
業況判断DI(建設業)



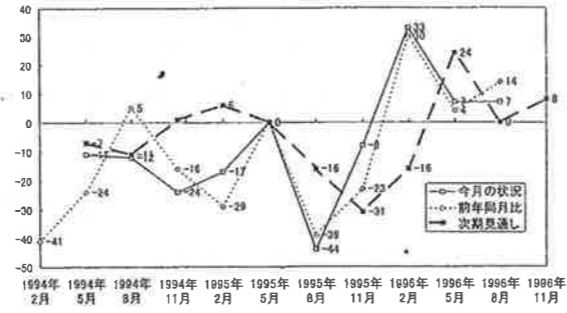
業況判断DI(製造業)



業況判断DI(流通業)



業況判断DI(サービス業)



【資料】DI値推移一覧

<今月の状況>

経常利益DI

	94年				95年				96年		
	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
「黒字」-「赤字」											
全業種	-9	2	-8	6	7	14	3	17	15	26	14

在庫感DI

	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
	「過剰」-「不足」										
全業種	19	25	15	15	8	16	18	13	10	18	12

資金繰りDI

	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
	「余裕」-「窮乏」										
全業種	-43	-33	-39	-41	-38	-34	-34	-28	-32	-27	-30

設備過不足DI

	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
	「過剰」-「不足」										
全業種	10	7	3	5	-4	-2	-1	-5	-8	-11	-8

雇用動向DI

	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
	「過剰」-「不足」										
全業種	11	7	-2	1	-8	2	-1	-3	-14	-7	-11

業況判断DI

		5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
		「良い」-「悪い」									
全業種		-23	-20	-22	-13	-18	-29	-13	-4	-1	-10
建設業		-9	-29	-36	-30	-12	-12	-30	-20	-11	-10
製造業		-33	-23	-17	-8	-29	-40	-14	-2	2	-4
流通業		-30	-13	-18	-7	-25	-7	0	-15	-6	-38
サービス業		-11	-12	-24	-17	0	-44	-8	33	7	7

<前年同月比>

売上高DI

	94年				95年				96年		
	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
「増加」-「減少」											
全業種	-35	-10	-4	-3	11	10	2	5	10	10	3

経常利益DI

	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
	「好転」-「悪化」										
全業種	-44	-17	-14	-5	5	3	-4	1	0	7	-2

<前年同月比>

在庫感D I

「増加」-「減少」	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
全業種	14	-10	-7	6	6	5	4	2	0	7	6

価格変動D I

「上昇」-「低下」	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
全業種	-61	-59	-53	-56	-47	-48	-49	-52	-34	-35	-31

取引条件D I

「好転」-「悪化」	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
全業種	-26	-21	-22	-24	-29	-19	-21	-21	-14	-11	-17

施設稼働率D I

「上昇」-「低下」	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
全業種	-40	-20	6	2	4	-16	-8	-2	6	7	-3

業況判断D I

「好転」-「悪化」	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月
全業種	-47	-23	-16	-19	-11	-15	-26	-20	-4	0	-9
建設業	-47	-25	-32	-21	-32	-27	-9	-20	-8	-10	-22
製造業	-53	-20	-17	-21	-3	-28	-40	-20	-5	8	3
流通業	-44	-26	-20	-15	7	0	5	-13	-15	-6	-35
サービス業	-41	-24	5	-16	-29	0	-39	-23	30	4	14

<次期(3ヶ月先)見通し>

(表内はその月に対する予測)

売上高D I

「増加」-「減少」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	-7	-2	8	1	8	-6	1	-1	30	15	10

経常利益D I

「黒字」-「赤字」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	2	1	9	7	15	7	14	11	25	21	28

在庫感D I

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	10	15	8	8	10	11	13	9	10	7	9

<次期(3ヶ月先)見通し>

(表内はその月に対する予測)

価格変動D I

「上昇」-「低下」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	-40	-41	-41	-42	-36	-42	-35	-44	-26	-29	-21

取引条件D I

「好転」-「悪化」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	-18	-19	-19	-20	-24	-17	-18	-20	-4	-12	-12

資金繰りD I

「余裕」-「窮乏」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	-46	-39	-40	-46	-43	-39	-35	-36	-37	-30	-33

施設稼働率D I

「上昇」-「低下」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	-14	-10	4	-5	9	-19	-5	1	3	-2	4

設備過不足D I

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	7	7	2	-1	-10	-3	-4	-2	-14	-8	-10

雇用動向D I

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種	4	6	-4	-18	-4	1	-1	-3	-13	-8	-15

業況判断D I

「良い」-「悪い」		8月	11月	2月	5月	8月	11月	2月	5月	8月	11月
全業種		-18	-9	6	-10	-18	-17	-16	-1	0	-4
建設業		-9	-25	16	-38	-16	-3	-22	-7	-3	-25
製造業		-27	-8	-7	-10	-26	-25	-18	-6	4	5
流通業		-21	-4	24	7	-7	6	-7	0	-4	-11
サービス業		-11	1	6	0	-16	-31	-16	24	0	8